

創学350年を祝う旧閑谷学校プロジェクションマッピングアートプロジェクト

インタラクティブ映像倶楽部

活動の目的

創学350年を迎える閑谷学校の歴史を振り返り、子供たちや市民とのコラボレーションで、未来へとつなぐアートプロジェクトを企画した。

光と音の演出により、今までにない閑谷学校の魅力を引き出し、子供から大人までが楽しめる『一期一会となるプロジェクションマッピング』を展開した。一般の方々が参加しやすいよう、未来へのメッセージや閑谷学校の楳の木の葉っぱのイメージを、イラストや備前焼で募集した。それらの作品は映像の一部となり、作られた映像を見るだけでなく、参加していただくことでより愛着がわくのではないかと思う。

また当日、会場内でスマホを操作してQRコードを読み取り、閑谷学校を作った池田光政や津田永忠の姿がイラストで浮かび、背景の映像とともに自分流に楽しめるシステムを作った。新しいタイプの映像の見せ方、楽しみ方を提案した。

活動の内容及び経過

備前市が今年初めて日本遺産活用事業を募集し、これに応募することになった。備前焼も活用して事業を展開することになり、募集する作品に備前焼も加えることになった。映像は、『歴史、現在、未来』と3つのパートで構成され、現在のパートでは、学問の木として閑谷学校の象徴的な楳の木の葉っぱのイメージを募集。未来のパートでは、未来へのメッセージを募集した。水彩画やペン画、刺繍やペーパークラフトに備前焼とバリエーション豊かな応募作品がそろい、備前市役所の多目的ホールに展示された。

これらの作品を取り込み、映像は作られ、エンディングロールに応募者の名前が掲載された。当日は台風の接近で翌日に順延となったが、予想を上回る来場者でにぎわった。

活動の成果・効果

日本遺産として歴史に残る建築と、現代の映像技術で作られたプロジェクションマッピングの組み合わせは、新鮮で効果的であった。コロナで自粛生活が続く中、ソーシャルディスタンスを保ちながら、気の抜けない開催だった。

アンケートで医療従事者の女性から「地元でこのようなイベントを開いてくださりとてもうれしく思います。プロジェクションマッピングを始めて見ましたが、とてもきれいで美しかったです。身も心もくたくたでしたが、明日への力をいただきました。」とか「コロナで次イベントが中止になる中、今年見た初めてのアートイベントでした。やっぱりアートは生活に欠かせないモノだと強く思い



葉っぱの応募作品展示風景



プロジェクションマッピング会場



国宝の講堂に投影された映像作品①



国宝の講堂に投影された映像作品②

ました。」という声が届いた。

今後の課題と問題点

コロナ対策で入場者を限定し、当日整理券を17時から配ることにしていましたが、並んで待つ人がお昼過ぎから見られ、予想以上の方が長時間待つことになってしまい申し訳なかった。ホームページで予約を取った方が混乱が少なく良かった。屋外での開催という事で、少しの雨でも映像に影響を与えてしまい、プロジェクターなどの機械も防水ではないため天気に左右される。今回も台風の接近により1日順延しなければならなかった。

- 代表者：伊永和弘 ●所在地：赤磐市
- URL：interactive-movie-club.org
- 設立年：2018年 ●メンバー数：7名